

業務連絡

1

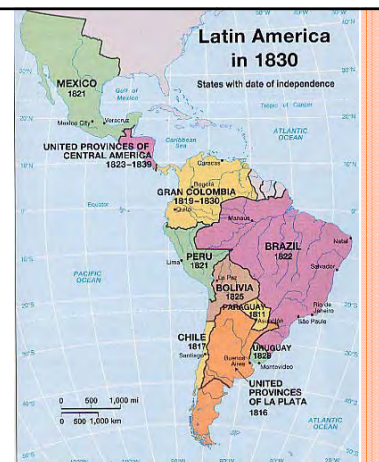
## 第11週 ラテンアメリカ1: 従属からの脱却?

2 地誌学I ポスト911世界の新地政学

ラテンアメリカ



ラテンアメリカ諸国の独立



ラテンアメリカの経済モデル

- 輸出への**従属** (→ 従属論)
- **輸入代替**
- **ネオ・リベラリズム** (≡ 国際加工基地化)
- (共産主義)
- (反米・反グローバリズム)

5

輸出への依存

- 天然資源(農産物)の開発
- 外国企業に独占的権利を付与
- **コンプラドール**階級の形成(大地主・商人)
- 3種の支配層  
コンプラドール、軍部・国家、**多国籍企業**  
→ 貧富の格差

6

- 1900年までイギリスの影響、その後アメリカ
- **資源経済**の形成  
中央アメリカのバナナ共和国
- 農産物原料輸出→アメリカの輸入  
ニカラグア(コーヒー、綿)、キューバ(砂糖)、  
チリ(銅)

7

### 従属論

- 1960年代にブラジルで理論化
- **中核 (core) と周辺 (periphery)** からなる世界経済を想定
- **周辺の立場**は新旧の植民地主義によって押し付けられる
- **中核**＝発展、富の蓄積  
**周辺**＝低開発、富の喪失
- **周辺**は**中核**の需要と政策に依存

8

### どのように従属から逃れるか

- **中核**のモデルは繰り返せない  
← **開発主義の誤謬**
- より**自給自足 (アウトアルキー)**的な政策の選択
- 国家の介入  
国内市場の育成、農地改革、収入の公平化
- **国際カルテル** (例: **OPEC**) やその他の価格決定方式の採用

9

### 輸入代替戦略

- 自立への対策  
1950年代にブラジルで開始
- 貿易不均衡を修正  
**輸入を抑制し国内製造業を育成** (主に国内販売)
- 特定の外国企業と提携 (例: フォルクスワーゲン)
- 輸入関税の強化
- 開発拠点 (首位都市、成長極都市) への産業集中

10

- 大規模公共事業の実施  
ダム、道路、新都市 (**ブラジリア**)
- 大規模な**都市農村間の人口流動**を惹起→**ファベラ** (スラム) の形成
- 資源輸出政策の推進 (例: メキシコ、ベネズエラの石油)
- インフラ整備と公共事業で**対外債務が増加**
- **強い国家** (例: アルゼンチンのペロンモデル＝労働福祉政策) → 最近の反米政権 (ベネズエラのチャベス政権) にも

### ファベラ (ブラジル、サンパウロのスラム)



## メキシコのスクオッター(不法占拠)地区



13

## ブラジリア(首都、計画都市)



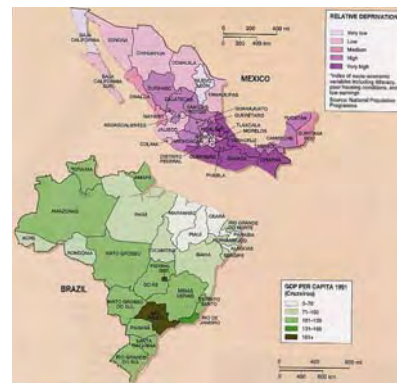
14

## ブラジリアの都市景観



15

## ブラジル国内の経済格差



16

## ネオリベリズムの導入

- 1982年 **対外債務危機**の開始  
それまでの開発政策のツケ、発展の停滞する「**失われた10年**」の始まり
- **ネオリベリズム**(チリ型モデル) = **経済自由化**の導入
- 1980年代に民主化が進展  
保守的政治家の台頭 ← 資本層の利害
- **IMF**、**世界銀行**との合意  
輸入代替政策終了、**ネオリベラ**ル経済政策の導入

17

- 反IMF暴動(サンパウロ、1982年)
- グローバル化した世界から **多国籍企業**を誘致
- 自由貿易地区の発展 = **マキラドーラ**(メキシコ)
- 経済成長(GDP)と社会発展(人権)のギャップ
- 政情不安 ← 90年代の通貨危機(メキシコ、ブラジル)
- 格差拡大に対する貧困層の不满 → **左派政権**への支持

18



マキラドーラ

- メキシコ・アメリカ国境のメキシコ側に伸びる保税加工自由貿易地帯(1965年～)
- アメリカからの機械部品輸入は免税
- 機械を組み立ててアメリカに輸出
- 1994年から生産の半分はメキシコにも売却
- 外国企業が進出←**低廉な労働力**
- 自動車工場の賃金は日給10ドル(アメリカ200ドル)
- 労働者の多くは搾取されやすい若い未婚女性  
→男女雇用比率の接近

19

シウダーファレス(メキシコ)のマキラドーラ

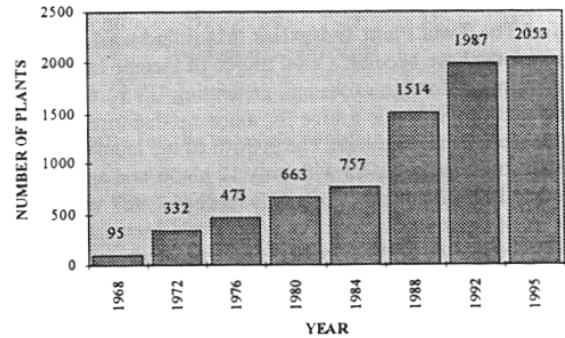


20

国境地帯での工場の分布



マキラドーラに進出した工場数



マキラドーラでのメキシコ人労働者



- 事業所数の推移(内陸部にも拡大)  
1995年: 2130→1999年: 3294
- 産業別事業所数(粗付加価値構成)  
**繊維・衣服: 970 (15.6%)**  
**電気・電子材料: 513 (28.7%)**  
木製・金属製家具: 370 (5.9%)  
輸送機械: 225 (19.3%)

谷浦妙子(2000: 282, 284)

24

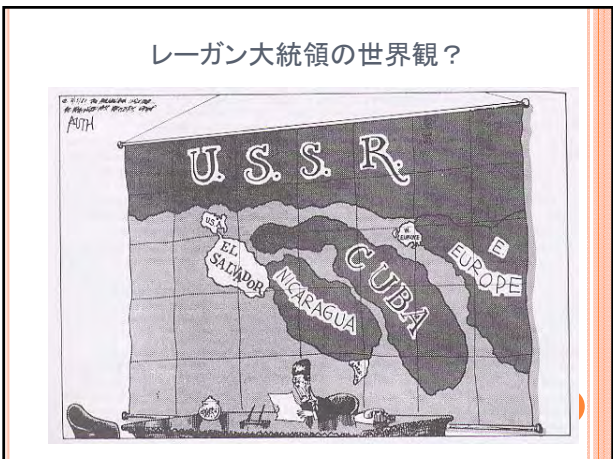


- 共産主義勢力の反乱
- 先住民の反乱
  - キューバ革命(1956年)
  - チェ・ゲバラの抵抗(ボリビア、1966-67年)
  - アルゼンチン(1960,70年代)
  - チリ、アジェンデ左派政権(1970年)  
ピノチエトによるクーデター(1973年) ←CIA
  - ニカラグア、サンディニスタ民族解放戦線(1977-1990年)、コントラ(反サンディニスタ勢力)との抗争 ←CIA(レーガン政権)

- アメリカの介入
- キューバ革命(1956年)の脅威
  - 農地改革実行=共産主義浸透排除
  - 米州域内市場拡大
- ↑  
中南米は「裏庭」という発想、開発はアメリカの役目という使命感(アメリカの例外主義)

- 歴史的背景
- モンロー主義(1823年)  
新世界(米大陸)をヨーロッパから区分アメリカのみが干渉
  - フロンティアの消失(1890年)  
開拓精神が普遍的救済主義として国外に延長される(マニフェスト・デスティニー)  
↓  
アメリカなら世界を救える(例外主義)

- カリブ海から中央アメリカに勢力拡張  
キューバ(1898年)、ドミニカ共和国(1916年)、ハイチ(1914-1934年)への軍事侵攻
- ユナイテッド・フルーツ創設(1899年)  
バナナ、サトウキビ、カカオ、麻の独占経営
- 内戦への介入  
エルサルバドル(1932年)  
ニカラグア(1910, 12, 32, 80年代=コントラ支援)  
ホンジュラス(1905, 10, 12, 19, 24, 80年代=コントラ支援) →cf. ムジャヒディーン



- 軍事介入(ハード・パワー)から経済的影響力(ソフト・パワー)の行使へ

→ラテンアメリカをアメリカの経済に結びつける

↓

1994年北米自由貿易協定(NAFTA)結成

1994年米州自由貿易地域(FTAA)提唱(05年目標)

↑

1994年～反グローバリズム(新自由主義)運動(メキシコ)

2005年～左派・反米政権の誕生(ブラジル、アルゼンチン、チリ、ベネズエラ、ボリビア)

31

### 「左派政権」の誕生

- アメリカ主導の南北アメリカの政治・経済の統合(米州自由貿易地域計画など)に反対←貧富の格差を拡大するだけ
  - ・ 経済は自由主義的、政治は社会民主主義的
- ベネズエラ(チャベス大統領)
  - ・ 石油の莫大な収入を背景に「社会主義革命」を進める
  - ・ 反米ポピュリスト(大衆迎合的カリスマ)
- ブラジル(ルーラ大統領)
  - ・ サトウキビから石油の代替エネルギー・エタノールを生産し、貧困の撲滅をめざす
- チリ(初の女性大統領バチェレ)
  - ・ ピノチエト軍事政権(アメリカ支持)下の負の遺産から脱却し、「成長と平等」を実現しようとしている。

32

- 互いに連携し、中国・インド・EUなどに急接近

- ・ メルコスール(南米南部共同市場)形成
- ・ ベネズエラはキューバと

- アメリカは、ラテンアメリカをイラク後の不安定地域と位置づけ、その対策に本腰

- ・ 対テロ対策としてパラグアイに海兵隊駐留(2005年)

33

どうぞ良いお年を

34